vol.408
農政連情報誌

みどりの風

2024
1
令和6年

今月の表紙「干し柿づくり」（撮影：福永 亮二 様）　第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

■新年のご挨拶
■農畜産物の2024年輸送問題に関する緊急要請を実施
■「JAグループ基本農政確立全国大会」が開催される
■参議院議員 藤木しんや氏コラム
■参議院議員 山田としお氏コラム
■地域農業のリーダー
■中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

60余回の勝負で負け知らずの剣豪として名高いのが熊本にゆかりの宮本武蔵である。熊本の西部、金峰山の麓にある岩戸・霊巌洞にこもり、自身の兵法「二天一流」をまとめた「五輪書」を書いている。宮本武蔵の人物像は謎も多い。私たちは吉川英治の小説「宮本武蔵」や司馬遼太郎の「宮本武蔵」を読んでその人となりを窺い知ることができる。

さて、宮本武蔵の強さを物語る有名な戦いが2つある。一つは、足利将軍家の剣術師範であった吉岡道場の師範吉岡清十郎との戦いである。武蔵は木刀の一撃で清十郎を破った。その後、清十郎の弟・吉岡伝七郎との戦いでも武蔵があっさりと勝利した。二つ目は、下関沖合の舟島（後の巌流島）での戦いである。相手は小倉藩剣術指南役・佐々木小次郎である。必殺技は燕返しで天下に名の通った剣豪である。誰もが知っているように武蔵は決闘の時間に大幅に遅れ、相手を苛立たせる戦法を取った。小次郎の物干しざおと呼ばれた長尺の太刀と武蔵が手にしたのは船の櫂（かい）を削って作った木刀だった。

先日、東京で第71回全日本剣道選手権が開催され、広島県の棗田（なつめだ）選手が優勝した。これまで熊本県勢も5回優勝を飾っている。

また、全日本女子剣道選手権では、熊本県の渡辺選手が念願の優勝を果たし、これで女子も熊本県勢の優勝は5回となった。

一方、熊本県の農産物に目を向けると、令和3年で全国1位の農産物が7品目もある。農業産出額は全国5位、生産農業所得は全国4位となっている。剣道とともに農業でも日本の食を支えている県として誇りと自信をもっていいと思う。

新年のご挨拶

恭賀新年

新年、明けましておめでとうございます。

平素より、盟友の皆様には、農政連の活動につきまして特段のご理解とご協力を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、食料、エネルギーや原材料の国際価格上昇による燃料・飼料や生産資材等の高止まりは長期化し、わが国農業生産の現場に大きな影響を与えています。加えて本年4月に迫る2024年輸送問題を抱える中、持続可能な農業生産や食料安全保障を確立するため、生産資材高騰対策の拡充や再生産可能で適正な価格形成の実現は、喫緊を要する課題となっています。

政府は、本年の通常国会に食料・農業・農村基本法改正案等を提出するとしており、令和6年度農林水産省予算概算要求で「事項要求」とされた同基本法改正に関連する施策の具体化と予算化を求める運動を展開する必要があります。

一方、春には熊本県知事選挙が実施されるとともに、取りざたされる衆議院選挙においても、我々の声を政策に反映するため、一人でも多くの議員を県・国政へ送り出すことが重要となっております。

農政連はこれからもより一層、結集力を高め、皆様の負託に全力で応えていく所存であります。

盟友の皆様には、今後もより一層のご支援とご協力を賜りますとともに、本年が輝かしい一年となりますようご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

熊本県農業者政治連盟
委員長 宮本　隆幸

農畜産物の2024年輸送問題に関する緊急要請を実施

JAグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は、10月26日に県知事へ、31日に自民党県連に対し農畜産物の2024年輸送問題に関する緊急要請を行いました。

熊本県は9月の補正予算で「県産農産物県外輸送効率化緊急事業」を措置しましたが、来年4月からの農畜産物の2024年輸送問題に直面する本県生産現場では、さらなる輸送経費上昇への懸念が高まっています。

この輸送問題により、消費地近隣の産地と比べ遠隔地の主産地が不利益を被ることなく、また、産地へのコスト負担が集中しないよう、政府への働きかけを熊本県に対して行ったものです。

熊本県農政連の宮本委員長は、「来年4月からの農畜産物の2024年輸送問題に直面する本県生産現場では、さらなる輸送経費値上げへの懸念が深まっている。この輸送問題により、大都市近隣の産地と比べ、熊本が不利にならないよう要請する」と訴えました。

要請を受けた熊本県農林水産部の千田真寿部長は「輸送コストの上昇により遠隔地の本県の競争力が低下しないよう高速道路の割引料金の拡充を含め全国的な課題については支援策の充実・強化を国に要望していく」と応えました。

また、自民党県連の前川収会長は「熊本県が食料供給基地としてやるべきことにしっかりとターゲットを絞ってやっていかなければならない。パレットの標準化に伴う費用等について何らかの支援を行いたい」と話しました。

緊急要請の内容

1. 物流の効率化等に向けた支援の拡充
2. 選果場におけるパレット標準化・段ボール規格変更に伴う選果機改修、パレタイジングへの支援
3. 農畜産物のトラック輸送に関する支援の拡充

▲県の千田真寿農林水産部長に要望書を手渡す熊本県農政連の宮本隆幸委員長（中央）右は経済連の丁道夫会長

▲前川収自民党県連会長（左から5人目）に要望書を手渡す県内農業団体の代表

「JAグループ基本農政確立全国大会」が開催される

～持続可能な農業・農村の実現と食料安全保障の強化に向けて～

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟（全国農政連）は、11月13日に食料・農業・農村基本法改正や食料安全保障予算などについて、与党に要請する「JAグループ基本農政確立全国大会」を東京都内で開催しました。大会には、全国のJAグループ・農政運動組織の代表者、役職員、青年部・女性部の約4,000名以上が参加しました。

持続可能な農業・農村の実現に向け、万全な政策の確立を行うとともに、食料安全保障強化政策大綱の改定や十分な予算の確保を求めました。

主催者挨拶・代表要請で、JA全中の山野徹会長は「食料安全保障の強化、再生産に配慮した適正な価格形成の新たな法制度の早期実現、生産資材価格高騰対策など、価格形成の仕組みだけでは補いきれないコスト変動への対応の在り方を検討してもらいたい」と述べました。

令和6年度農業関連予算及び令和5年度補正予算の重点要請事項

1. 食料安全保障の強化に向けた対策の強化
2. 適正な価格形成の実現および国民理解の醸成・行動変容
3. 国内農業生産の増大に向けた生産基盤強化対策の抜本的拡充
4. 将来を見据えた活力ある産地づくりの推進
5. 品目別対策
6. 災害・感染症等に強い農業づくり対策

▲要請者を手渡すJAグループ代表者

食料安全保障や価格形成を支える仕組みの具体化や予算の確保に注力する考えを強調

要請を受け、自民党の江藤拓総合農林政策調査会長は「多面的機能も含めた農業の果たしている役割を基本法の中に書き込むことが大事だ。日本の未来の農業・畜産業を切り開くために政府・与党一体となって努力する」と述べました。

他にも自民党の森山裕食料安全保障に関する検討委員会委員長や公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長が挨拶に立ちました。

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの
永田町でも百姓宣言

令和5年秋の農政議論のポイント

【令和5年度農林水産関係補正予算】

令和5年度農林水産関係補正予算総額は、8、182億円（令和4年度：8、206億円）と、昨年とほぼ同額で閣議決定されました。中でも「畑地化促進事業」については、前年度3倍の750億円が措置され、要件を満たし採択保留となっている全ての方に対する支払いの目途が立ちました。その他、野菜種子等を含めた農業生産資材の国産化支援や高温障害等急激な気候変動への対策、物流2024年問題、適正な価格形成と国民理解醸成に向けた施策など、食料安全保障の確立に向けた各種対策が講じられる結果となりました。

【収入保険と野菜価格安定制度の同時加入】

収入保険と野菜価格安定制度の同時利用について、早期加入者や他産地・農家間の公平性の観点から、同時加入は令和6年度利用者まで（R7以降は同時利用期間の設定なし）とする旨に加え、①R3同時利用開始者はR5で同時利用終了②R4・R5同時利用開始者は3年間の期間が設定③R6同時利用開始者は2年間の期間を設定（今回新設定）、の3点が確定いたしました。農水省は同時利用者が多い県を中心に、共済組合と協力し産地に出向いて個別説明する見通しです。

【不測時における食料供給確保対策に関する新法制度】

今国会において農林水産省提出法案はありませんが、自民党では「不測時における食料供給確保対策に関する新たな法制度検討PT」が開催され、計3回の会議後にとりまとめを作成する方針です。元農林水産大臣の野村哲郎議員がPT座長として、「食料・農業・農村基本法」とは別の法案として提出を目指し、不測時に必要な施策について、今後、検討が進んで参ります。

【令和6年度農業関係税制改正】

11月21日の令和6年度農林部会税制改正重点要望ヒアリングに始まり、主要項目の審議、○×審議などを踏まえ、税制改正大綱の閣議決定に向けて議論が進んでおります。私は3班（A：農業経営・農地対策班・B：農林関係産業対策班・C：林業・環境対策班）全てに所属するのみならず、B班班長を拝命いたしました。JAグループの要請事項が全て受け入れられるよう、取り組んでまいります。

▲令和6年度税制改正要望ヒアリング（B班）の様子

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む

飼料作物の自給率を高めよう

〈子実用とうもろこし栽培視察〉

2023年10月に富山県小矢部市で子実用とうもろこしの栽培の実態を視察してきました。

「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」において、国は「小麦や大豆、飼料作物など、海外依存の高い品目の生産拡大を推進するなどの構造転換を進めていく」としています。

これを受け、国内においても、飼料作物、とりわけ子実用とうもろこしの作付け拡大が進んでいますが、十分な収量が確保できず、所得が確保できない等の課題が見受けられます。

JAグループでは、子実用とうもろこし等飼料作物の増産がはかられるよう、政策提案等において国に要望していますが、生産現場における課題等を把握する目的で、富山県小矢部市で子実用とうもろこしを作付けしている圃場等を訪問し、収穫作業を視察するとともに、若手農業者との意見交換会を行いました。

子実用とうもろこしは、比較的作業時間が短くて済み、連作も可能で、有望な飼料作物です。収量を上げるには畑地化する方が良いのですが、畑地化してしまうと水田活用直接支払い交付金が打ち切られてしまうことや、麦や大豆のようにゲタが無いので、品代だけでは経営が成り立たちません。さらに生産を拡大するためには、政府の支援が必要とのご要望をいただきました。

また、子実用とうもろこしは、収穫後の乾燥・粉砕・保管が課題となるので、JAを中心に受け入れ態勢を整えてくれると、生産者は助かるとの声も聞かれました。

農地を農地として利用する観点から、重要な作物ですので、制度面での支援はもとより、JAが中心となって地域としての支援体制を構築していくことが必要です。

▲子実用とうもろこし栽培を視察

地域農業のリーダー

～JAあしきた青壮年部活動報告～

JAあしきた青壮年部は、田浦支部・芦北支部・津奈木支部の3支部(34名)で構成され、部員の多くが柑橘農家です。部員数は少ないですが、平均年齢は37歳と若者パワーを活かし様々な活動を行っています。

柑橘苗木の大苗事業

JAあしきたの主要作物は、サラたまちゃん、水俣茶、あしきた牛、そしてデコポンや甘夏といった柑橘類があります。田浦支部では毎年、柑橘の苗木約2、500本を加温ハウスで2月から半年間育成し、8月に大苗として生産者へ配布しています。大苗を定植することで、生産性の向上並びに、未収益期間の短縮を図ることができ、柑橘栽培の一助を担っています。

▲柑橘大苗の配布

食農教育の実施

田浦支部では、保育園の園庭に柑橘苗木の植樹、ジュース絞り体験を行っています。芦北支部では、小学生と加温デコポンの摘果や収穫体験を行い、津奈木支部では、小学生とサラたまの定植～出荷準備まで、中学生とは大根の播種～寒漬け加工、販売まで行うなど、各支部、地域に密着し様々なやり方で食農教育を実施しています。

▲サラたまちゃんの収穫体験

▲デコポンの収穫体験

現地研修会並びに学習会の実施

管内優良農家の園地にて現地研修を行い、品質や作業効率の向上、生産コストの削減などについての学習、栽培技術だけでなく、経営管理能力の向上を目的とした学習会も行い経営者としての質の向上を図っています。

▲圃場での現地研修会

▲青色申告並びに農業者年金の学習会

地域イベントへの参加

朝市や産業祭など、各地域のイベントに積極的に参加し、地域振興と人とのつながりを大切にしています。また、他地域から来場された方々との交流も楽しみながら、芦北の魅力を少しでも多くの方に知ってもらえるよう活動しています。

▲芦北町産業祭
（子供たちとのふれあい）

JA中央会

「2023くまもと農業フェア」大盛況で幕を閉じる

熊本県内の農畜産物が勢ぞろいする「2023くまもと農業フェア」を11、12日の両日、合志市の県農業公園カントリーパークで開催し、約17,000人の来場者でにぎわいました。県内JAなど農業関係団体が旬の農産物を販売したほか、農業高校マルシェやらくのうマザーズによる哺乳・搾乳体験、親子で楽しめる縁日などが出展しました。熊本県、JAグループなど農業関係団体で構成するくまもと農業フェア実行委員会が主催しています。

同委員会会長でJA熊本中央会の宮本隆幸会長が「国際情勢の激変で農家経営は厳しいが、食料安全保障の確立に向け、安全・安心な農畜産物を消費者に届けるため一丸となって取り組む。農業フェアを通じて、食や農業について理解を深めてほしい」と挨拶しました。

会場では、国消国産の大型パネル設置やチラシ配布などにより、来場者に国消国産や食料安全保障の重要性を訴えました。また、JA熊本県女性組織協議会が県産農畜産物を使った手作りの豚汁「JA女性部地産地消鍋」を販売。同協議会の太田桂子会長は「地元産の野菜はもちろん、みそも手作りしたものを使った」と語り、用意した1,800食はあっという間に完売しました。熊本県農協青壮年部協議会では餅つきを実演し、参加した子どもたちと汗を流しました。同協議会の石本勝也委員長は「餅つきが初めてという子どもたちも多く、食農教育に繋がったと感じた」と話しました。

▲国消国産の大型パネル

▲青壮年部による餅つきの実演

▲女性部による地産地消鍋の販売

JA経済連

第1回熊本県枝肉共進会を開催

吉田忍さん（肉牛の部）・㈲DEAPS（肉豚の部）グランドチャンピオン賞を受賞！

JA熊本経済連と熊本県畜産連合会は10月30日から11月3日、菊池市七城町の㈱熊本畜産流通センターで第1回熊本県枝肉共進会を開催しました。当共進会は、畜産経営の安定と消費拡大を目的に開催し、肉牛の部で吉田忍さん（JAくま）、肉豚の部で㈲DEAPS（JA菊池）がそれぞれグランドチャンピオンを受賞しました。

肉牛104頭（乳用種＝2頭、交雑種＝14頭、褐毛和種＝20頭、黒毛和種＝68頭）、肉豚9セット（36頭）の出品があり、（公社）日本食肉格付協会や熊本県の職員などが肉質や色、脂肪交雑などの審査基準に基づき審査しました。吉田さんが出品した黒毛和種は、1キロ1万1,010円の高値で落札されました。

吉田忍さんは「地元である球磨郡産の導入牛かつ牝牛で受賞でき、喜びもひとしお。これからも良質な肥育牛生産に努める」とあいさつしました。また、㈲DEAPSの吉田秀一代表取締役は「消費者のニーズに応えられるような安全で安心なおいしいりんどうポークを育てていきたい」と話しました。

▲肉牛の部でグランドチャンピオンを受賞した吉田忍さん（写真右）と肉豚の部でグランドチャンピオンを受賞した㈲DEAPSの吉田秀一代表取締役

その他の上位入賞者は次のとおり

◆肉豚の部

▽名誉賞＝㈲冨田ファーム（菊池市）▽優秀賞＝JA北九州ファーム㈱綱田牧場（芦北町）

◆肉牛の部

【乳用種の部】▽該当者なし

【交雑種の部】▽名誉賞首席＝山田勝郎（菊池市）▽名誉賞2席＝㈱宮木牧場（熊本市）▽優秀賞＝中河原三郎（南関町）

【褐毛和種の部】▽名誉賞首席＝杉田年徳（高森町）▽名誉賞2席＝日置一誠（西原村）▽優秀賞＝岩根孝明（菊池市）、国武貴史（美里町）

【黒毛和種の部】▽名誉賞2席＝川口誠二（芦北町）▽名誉賞3席＝㈱TAIJU（菊池市）▽優秀賞＝中原誠喜（熊本市）、㈱チャレンジファーム（山鹿市）、㈱内田畜産（菊池市）

【特別賞】▽脂質賞＝㈱きもとファーム（大津町）

JA共済連

「マザーズセレクション大賞2023」受賞！ JAのこども共済「学資応援隊」

JAのこども共済が、一般社団法人「日本マザーズ協会」が主催する「第15回マザーズセレクション大賞2023」を受賞しました。今年で3年連続の大賞受賞です。

マザーズセレクション大賞は、日本の子育て支援・母親支援の一環として、子育て期のママ達が愛用している〈モノ〉や、ママたちの応援となる〈コト〉の中で「便利」「元気になる」「癒される」「子育てに役立った」など、一般のママたちからの応募（投票）の得票結果で選出し表彰するアワードです。

ママたちの決め手は地域密着と高い貯蓄性。お子さまの学資金づくりを、JAのこども共済「学資応援隊」で準備してみませんか？詳しくは最寄りのJAへお気軽にお尋ねください♪

JA共済が選ばれています！！

★ ポイント1 ★
学資金のお受取りは、進学時期に合せた中学・高校・大学プランからお選びいただけます。

★ ポイント2 ★
高い貯蓄性と保障がバランスよく備わっていて、効率的に資金準備できます。

★ ポイント3 ★
ご契約者（親族）がもしものとき、※その後の共済掛金はいただきません。
※共済掛金払込免除不担保特則を付加する場合を除きます

★ ポイント4 ★
お子さま・お孫さまのために75歳までご契約いただけます。

農政連

「令和5年度農林水産関係補正予算8、182億円を閣議決定」

政府は、11月10日の閣議で、「物価高対策や持続的な賃上げなどを柱とする新たな経済対策」の裏付けとなる令和5年度補正予算案を決定しました。一般会計の追加歳出は約13・1兆円で、このうちの農林水産関係は8、182億円を計上しました。

農林水産関係のうち、焦点になっていた食料安全保障の強化に向けた構造転換対策の主な施策として、肥料の国産化・安定供給確保対策や飼料自給率向上緊急対策、米粉の利用拡大支援対策、畑作物の本作化対策などに2、113億円を計上しました。また、物価高騰等の影響緩和対策の主な施策として、施設園芸等燃料価格高騰対策、和牛肉需要拡大緊急対策などに1、001億円を計上しました。さらに環太平洋連携協定（TPP）関連対策の主な施策として、グローバル産地生産流通基盤強化緊急対策、産地生産パワーアップ事業、畜産クラスター事業などに2、527億円を計上しました。

農林水産関係補正予算の重点事項

1. 食料安全保障の強化に向けた構造転換対策
2. 物価高騰等の影響緩和対策
3. 「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施
4. 持続可能な成長に向けた農林水産施策の推進
5. 防災・減災、国土強靭化と災害復旧等の推進

総額　8、182億円
うち、物価高騰影響緩和対策〈1、001億円〉
食料安保構造転換対策〈2、113億円〉
TPP等関連対策〈2、527億円〉

農林水産関係補正予算の主なポイント

①畑地化促進事業：750億円
《水田の畑地化に一定額を助成》
②米粉の利用拡大支援対策：20億円
《米粉の商品開発・製造を支援》
③肥料の国産化・安定供給確保対策：68億円
《堆肥の高品質化、ペレット化に必要な施設整備》
④生産資材の使用低減対策：32億円
《土壌診断による化学肥料の低減などに支援》
⑤果樹産地における花粉確保対策：5億円
《国産花粉への切り替えを支援》
⑥飼料自給率向上緊急対策：130億円
《資料の増産に必要な施設整備など》
⑦適正な価格形成と国民理解の醸成：5億円
《生産コスト指標の作成・検証や実態調査など》
⑧施設園芸等燃料価格高騰対策：45億円
《燃油・ガスの価格高騰に補填金交付》
⑨和牛肉需要拡大緊急対策：50億円
《和牛肉の新規需要開拓、消費拡大を支援》
⑩産地生産基盤パワーアップ事業：310億円
《収益力強化に取り組む産地を支援》
⑪国産チーズの競争力強化：61億円
《原料乳の高品質化・コスト低減、施設整備など》
⑫農地中間管理機構による農地集約化等の加速：31億円
《農地集約化に取り組む地域に協力金》

お子さまの学資金づくりに。

3年連続!

JAのこども共済
学資応援隊

くらしの保障、相談するなら

JA共済

●ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス　https://www.ja-kyosai.or.jp

23481050462

あとがき

「ひいおばあちゃんのお手伝い」

撮影：高橋　恵莉 様
第11回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

今年、皆さんは初詣には行かれましたでしょうか。随分昔のことですが、除夜の鐘が鳴ってから、明治神宮に初詣に行ったことがあります。砂利道の参道を大勢の人が押し合いへし合いで進んでいき、社に手を合わせたことを思い出します。当時は景気も良くお賽銭に万札を投げ入れる人もたくさんいました。電車も一晩中動いていました。私はその後友人の埼玉の田舎の実家に行きました。朝方家について、お正月の料理をご馳走になったのですが、お節料理のほかに出てきたもの、お雑煮が変わっていたのです。この家で馳走になったのはぜんざいでした。正月から甘い小豆と餅を食べたのははじめてでした。当地では、正月はぜんざいと決まっているとのことでした。

熊本では雑煮を食べる風習がありますが、地方によって中に入れる具材が違うものですね。

大学の時、教授が生徒に餅を持ってくるように言って、この時地域で餅の形が違うのを初めて知りました。丸餅と角餅の境目は、岐阜県の関ケ原辺りと言われています。関ケ原より東では角餅、西では丸餅が一般的なのだそうです。

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中央区南千反畑町2-3　電話 096-328-1284
編集責任者／中村　隆宏
●発行日／令和5年12月15日・毎月1回15日発行
●定価／1部50円（但し、会員の購読料は会費の中に含む）